



## はじめに

2016年度、成人した博物館として、人と自然の博物館（ひとはく）は調査・研究や生涯学習事業をはじめ、地域活性化活動などにも精力的に取り組んでまいりました。

調査・研究活動の一環としては、岩槻邦男名誉館長が長年に渡り生物多様性を統合的に探究しアジア地域の保全に大きな貢献された成果が、『「自然と人間との共生」という理念の形成発展に特に寄与した研究活動』として評価され、「コスモス国際賞」を受賞されました。資料や展示については、フランス・アペロン県とともにファール没後100年記念事業の展示を実施したほか、自然史系博物館8館と連携し「自然史レガシー継承・発信事業」を進め、自然史資料の重要性を発信する展示や海外視察報告ワークショップなどを行いました。また、教育普及活動の一環として、国際花と緑の博覧会記念協会と台湾台北市立動物園ともに「高校生のための生き物調査他県ツアーin台湾」を実施しました。さらに、「三田市有馬富士自然学習センター・プログラム運営事業」を始動しました。

兵庫県では、少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正等の構造的な課題に対応し、将来にわたり活力ある地域社会を構築していくため、地域創生に向けた取組みを推進しています。その中で、われわれの博物館の果たす役割はますます重要になってきます。地域の自然や文化に関する研究活動や資料の収集・蓄積はもちろんのこと、それらを活用した環境学習や新たな地域活性化を支援する組織として、今後も活動を推進していく必要があります。

2017年10月、「ひとはく」は開館から25年目を迎えることができました。これから成熟した博物館としての活動が求められるとともに、地域創生の組織としての役割をいかに果たせるかも問われていると思います。皆様には温かく見守っていただきながら、厳正なご批判と、有益なご指導をいただければと期待いたします。

兵庫県立人と自然の博物館  
館長 中瀬 勲